まい あーと■アクリル画「モーニング・コーヒー」by 松山吾作

ヤマネコより野生の濃いのが約ふたり

芸術、してる?

しばらくだねえ

大体あなた、美の本質というなはねえ

ある文化交流会から

久田雅夫

ツシマヤマネコ写真展

オープニングパーティーにて

銀座キャノンサロンをはじめとして各地を巡回してきた『愛しき野生』(久田雅夫作品)が立川に帰ってきた。十年の歳月をかけてきたツシマヤマネコの表情には久田にしか撮れない、それは生き物に対する愛護の気持の強さによるのだろう。この日、集うた103名の文化人たち。期せずして、それぞれの分野を越えて「立川文化」を語り、盃をあげ、展けゆく明日に照準を合せはじめていた。

『頌の会』を育ててください！

SHOH-NO-KAI

この「立川」という街が、住んでいる人や、働いている人のものであってみれば、もっと街を知りたい、もっと街の人たちを知りたい。あなたが「立川には、こんな人がいるんです」と誇りをもって云えるような、そんな街になってくれたら。『頌の会』が育てば立川はもっと面白い街になります。

本号の「ある文化交流会から」でのレポートにみるように、ツシマヤマネコという絶滅寸前と云われてきた野生動物を十年間もレンズで追ってきた久田雅夫氏（栄町5丁目）の成果と努力に対して、久田氏を囲む集いをもつことが出来た（7月21日、於メヌエットサロン）。

発起人に五十嵐栄治氏、岩崎孟司氏、小林玉来氏、佐藤多持氏、清水定氏、須崎昭平氏、鈴木功氏、砂川昌平氏、寺沢正光氏、津戸英守氏、林みち子氏、三田鶴吉氏、村田康子氏。以上13氏のそうそうたる顔ぶれ。久田氏も挨拶のなかで「今夕、お越しの方々は発起人の先生方の魅力で集まられたもの」と述べられている。

それにしても、会場をうめた多士済済。文化人、芸術家、教育者、環境問題に取組む人々。

この集いの準備中から、すでに一回切りのパーティーではあまりに惜しい、この立川にはこれから全国規模で活躍する人、あるいは国際舞台に躍り出る人がきっと輩出されるはず。そういう未来を担う人々を励まし励まされる集いが欲しいという声があがっていた。

立川商工会議所をはじめとして多くの団体、企業、個人からお力添えを頂いて『頌の会』が発足。「字源」（角川書店）によれば「頌」とは、──ほめる、ほむ、たたへる、其の功徳の美を称へるとある。

『愛しき野生を愛でる会』では便宜上、当編集部が事務局を担当させて頂いてきたが、今後の『頌の会』については広く立川人の賛同のなかで育まれてゆくものとなってまいります。読者諸氏の卓抜な英知によって、芽ばえようとしている『頌の会』を立派な幹をもつ大木に育てていただけたらと切望してやみません。『頌の会』を育ててください。

●この件に関するお問合せは現在のところ、「えくてびあん編集工房」です。

ぐるり立川 18

野草の観察会などでよく耳にすることであるが「改めて見ると、なるほど可憐な花がたくさんあるものだ…」とおおかたの人は言う。

日頃つい見逃してしまう野草たち、花や葉の特徴、名前の由来や人々とのかかわりあいなど、おつきあいすればするほど一段と興味のわく世界である。今回はもう一度多摩川の河川敷を散策してみたい。八月末から九月にかけての河川敷は花を咲かせたり実をつけたりする野草が大変目につく。この時期、マメ科の植物ではヤハズソウやメドハギ、ネコハギなどが川原を美しく彩る。ヤハズソウは淡紅色の小さな蝶形花をつけ、葉を指先でつまんで引っぱると矢筈状に切れるのでその名がある。メドハギは目処萩の意味で「筮（メドキ）」萩が省略されたもの。茎をとって占の筮竹の代用品として使ったと言う。このほかカワラケツメイやヤブマメ、クズ、コマツナギなどマメ科の植物が目立つ。またこの時期見逃せないのがイネ科のキンエノコロ、ムラサキエノコロ、アキエノコログサだ。エノコログサは犬の子草の意味でその穂が子犬の尾に似ているからで別名はネコジャラシ、幼児がこの穂で子猫をじゃらして遊んでいた風景をつい先日見かけた。夕ぐれの逆光に光るムラサキやキンエノコロは川原の風物詩で見事である。

（鈴木　功）

ムラサキエノコロ(イネ科)

ことわざ問答 18

漢字一字挿入せよ

▼前車の覆るは●車の戒め

▼足を削りて●に適う

表紙は語る

まい　あーと■アクリル画
「モーニング・コーヒー」by 松山晋作

この春の「多摩総合美術展」の入選作品のなかでも、一際さわやかなイメージを与えていたこの作品。「絵を描くことは小さい頃から好きでしたけど、しばらく中断してましてここ7〜8年でしょうかね、本腰でやりはじめたのは」と、日曜画家を任じている松山さんは語りはじめた。「アクリル画は、私たちのように忙しい中に時間を割いて描いている者にとっては、乾きが早いのでとても便利ですし、油調のものも、あるいはマット調にも、水彩風にもできるという点で私はすっかり気にいってこのところアクリルばかりですね」

『Rの会』に属している。Rはフランス語のArt（芸術、美術）にも通じるという。

松山さんは15年ほど前にパリ留学の経験がある。たまたま友人がミルウオーキーの大学構内で撮ったキャフェのテラス風景に触発されて、松山さんの裡なるカフェの思いが作品を完成させた。

真如苑だより

猛暑つづきの夏でしたがそんな中にも、朝夕ふと頬をなでる風がつめたかったりして、季節のうつろいを感じます。真如苑の境内にも小さな秋が生れようとしているところです。お出掛けください。

■日時　9月12日(木)●午後2時〜4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

?立川クイズ

いよいよ実りの秋です。立川でも農業が盛んな砂川辺りを歩きますと、とり入れの時を待つ野菜や果物たちがいっぱい。何とも豊かな気分になる眺めです。でも、その昔の砂川は一面の荒涼たる原野だったとか。そこに鍬が入れられ新田として開かれていったワケですが、では、それは次のどの時代だったでしょうか。

①室町時代中頃②江戸時代初め頃③江戸時代末頃

【8月号の答】①

諏訪神社が信州諏訪大社から勧請されたのは平安時代の初め頃、八一一年と伝えられています。その後、たびたび火災にあい、現在の社殿は江戸時代に再建されたものですが、本殿（一六七〇年建築）は現在市内にある木造建築としては最も古い部類のものです。

立川・トピックス

ミス立川に葛西光枝さんが栄冠

8月3日、うだるような暑さのなかだったが、今年は冷房のきいた屋内での選考。立川高島屋6Fの会場には、はちきれる程の人、人、人。その中を47名のミスたちが次々に登場してくる。

まず10名に絞られて、その中から3名が選ばれた。準ミスには切替久絵さん（写真左）と須崎香織さん（右）、そして栄光の「ミス立川」には、葛西光枝さんの上に輝いた。葛西さんは9月下旬に行なわれる「ミス東京」大会に臨むことになる。

この夏もロックフェスティバル盛大

ロック・スピリットをこの立川に、と謳いあげている「フライング・スカイ」が今年も市民会館で熱いロックを歌いまくってファンを堪能させた（8月4日）。

当日はオユンナをモンゴルから迎え、また立川とゆかり深い「真如太鼓」も響かせて、名実ともに「友情出演」に恵まれ会場は熱気に満ちていた。

また3日には、アマチュアバンドによる競演で沸き、「立川まつり」の一環として地元密着型の祭典に成長した。

東風

八月のある暑い日、「立川民俗の会」の方々に笠取山へ連れていってもらった。笠取山は多摩川の水源がある山として知られ、本誌でも第25号（昭和61年8月号「多摩川を遡る」）で取材している。だが、今回はその時とは別の愉しみがたくさんあった◆登山道の脇に「馬止」の杭を認めると、早速にひとりの人が、昔はここまでは馬で登ってきたということでしょうねえ、と云ったのがキッカケで次から次へと疑問が提出されてくる。別に民俗の実地検分に来ているわけではないが「民俗の会」の方々はあふれる程の疑問に満ちている。ふりかえってみると、私たち「街の生活者」は疑問をもつということがめっきりなくなってしまった。街を行く人は「何でも知っている」という顔つきをしている◆噂には耳にしていたが、鈴木功さんの草花にたいする博識ぶりにもまた舌を巻いてしまった。あれがヤナギラン、これがキバナヤマオダマキ、ほらクガイソウ、シモツケ、なんだか、友だちか親類の人の名前を呼んでいるようで、やあやあという再会の喜びがこちらにも伝わってくる。単に草花の名前を知っているというだけではない。名前は親しい順に覚えてゆく。両親や奥さんの名を失念する人はおるまい、恋人の名をわすれたら、明日はお別れである◆登山中、アサギマダラという奇麗な蝶に出会った◆風立ちて　月光の坂　えくてびあん

（編集）小川知子　神山清子　隅川理　山田恵子
中村絵里　半沢正弘　原田悦子　馬場真木子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治
スタジオ269　枝川一巳　本多修

月刊えくてびあん　第86号
平成三年九月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2-20-15
パークビューハイツ501−〒190
電話　〇四二五(28)〇〇八二
FAX　〇四二五(28)一二九七
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

ことわざ問答 答

前車の覆るは後車の戒め

前の人の失敗は、後に続く人の教訓になるたとえ。人のふり見て我がふり直せ、に通じる。

足を削りて履に適う

自分の足を削って、靴に合せること。目先のことにとらわれて事の本末を誤るたとえ。

私の傑作選 NICE SHOT! NO.2

■ともゆき

岡野和重さん（柴崎町1丁目）
愛機➡ローライ35T

誰のアルバムにもキラリッと
光る一枚がある。撮れた！と
思った。シャッターが軽い。

■影も飛ぶ

栗山　正さん
（富士見町２丁目）
愛機➡キャノン
EOS1000